

## 講演者紹介（東洋大学）

### <政策提案発表のゼミ生>

#### テーマ： 国境離島へ観光するための、魅力的なツアーの企画とは



南鳥島への魅力的な観光ツアーを企画しました。限られた時間の中で、一人一人が活動に積極的に取り組み、問題意識や解決策を整理、それらに加え、ヒアリング調査をおこなうことで実現可能性を高めていきました。ツアー目的としては、海や離島への親しみや重要性をツアー参加者に知ってもらうことを第一に、最終的には海に関する人材育成にまでつなげることができるツアー企画を心掛けました。そして、海に対して抵抗感を持っている人でも行ってみたいと思わせるような、充実したツアー企画にしました。

#### テーマ： 海洋観光の専門家を育成するためには、今後どんな取組が必要か



私たちは「自分らしさ」をモットーにワークショップに取り組んできました。班員一人一人が自分の役割をしっかりと理解して、一つの目標に向かって取り組んできました。メンバーそれぞれが忙しく、なかなかまとまった時間をとることはできませんでした。しかしオンとオフのメリハリをしっかりとつけて取り組むことができ、こんなに楽しくて良いだろうか？と思うことすらありましたが、ここまで進めてこられたのは国土交通省の方はじめ、両先生方、インタビューを受けてくださった皆様のおかげです。誠にありがとうございました。

#### テーマ： 「観光」を使って、海の魅力を 10 代の若者に発信するためには、今後どんな取組が必要か



内陸県に住む高校生が、少ない負担で長期的に参加できる海の課外活動が少ないことに注目。高校生が修学旅行の前で情報収集やパネルづくりを行うことにヒントを得て、当企画を思いつきました。各関係者がなぜ、いつ、どのように活動へ参加するのかを整理した後、企画の流れをデザインしました。高校教員の経験を有する国際観光学科須賀忠芳教授へのヒアリングによって内容をブラッシュアップ。また、「誰にでも分かりやすく、イメージしやすいこと」を重視し、ネーミングや資料作成を行いました。

### <ゼミ指導教員>

#### 矢ヶ崎 紀子

〔東洋大学国際地域学部国際観光学科 准教授〕  
〔「海洋観光の振興に関する検討会」座長〕



1987年住友銀行入行。1989年株式会社日本総合研究所入社。2008年に観光庁設立と同時に参事官（観光経済担当）に就任。観光統計の創設・整備、観光白書、休暇改革、国内旅行振興等に従事。2011年より首都大学東京都市環境学部特任准教授。2014年より現職、日本貨物鉄道株式会社取締役。

2015年より東武鉄道株式会社取締役。国土交通省交通政策審議会委員。社会資本整備審議会臨時委員。国土審議会特別委員。この他観光庁や海事局の協議会等で座長を務める。専門分野は観光政策論及び観光産業論。

#### 藤稿 亜矢子

（東洋大学国際地域学部国際観光学科 准教授）



東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻修了。環境学博士。発展途上国における自然資源の保全と持続可能な利用に関わる研究を経て、2005年よりWWF（世界自然保護基金）ジャパンに勤務。国内外の政府、企業と協

働し、環境保全プロジェクトに取り組む。2014年より現職。一般社団法人環境情報科学センター理事。専門分野は環境学、自然共生システム。

## 講演者紹介（講師）

### <講師(講演順)>

#### 松井 克哉（日本クルーズ客船株式会社 船長）



1994年神戸大学(旧神戸商船大学)商船システム学課程航海学コースを卒業、同年9月神戸大学(旧神戸商船大学)乗船実習科航海課程を修了し、同年12月に日本クルーズ客船(株)入社。2000年4月より二等航海士、2006年10月より一等航海士、2014年5月より船長を務める。

休暇中は神戸大学海事科学部はじめ教育機関や公共施設における講演等の海事思想普及活動にボランティアとして積極的に協力し、国際海事教育者会議(IMLA)に永年メンバーとして参加し船員教育の持続的な発展をライフワークとして定め、活動を行っている。

#### 青山 敦士（株式会社 島ファクトリー 代表取締役）



1983年、北海道北広島市生まれ。大学の先輩から海士町のことを聞き、新卒で海士町観光協会に就職。「海士の島旅」のブランディングに取り組み、観光協会としては東京でのアンテナショップ「離島キッチン」島の人材派遣業「マルチワーカー」島の民宿とタイアップしての「島宿」などに取り組み中で、地方の在り方を問う「島会議」の企画・運営を担当。2013年には観光協会の子会社となる(株)島ファクトリーを立ち上げ、旅行業・島のリネンサプライ業に取り組み。

#### 楠田 拓郎（NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク 事務局長）



1981年東京都生まれ。1年半日本各地を放浪後、2006年に岩手県田野畑村へ移住し、前身団体に参加。2008年NPO法人化し、2009年より現職。

自身も津波に追いかけられた3.11東日本大震災で、田野畑村は壊滅的な被害を受けたものの、いち早く中古漁船を確保するなどし、7月から本格的に活動を再開させた。

2012年「第7回JTB交流文化賞最優秀賞」受賞。

#### 窪川 かおる（東京大学大学院理学系研究科 海洋アライアンス海洋教育促進研究センター 特任教授）



1991年より東京大学海洋海洋研究所助手となり、2004年より同研究所先端海洋システム研究センター教授。2010年に退職後、東京大学理学系研究科附属臨海実験所特任研究員を経て、2010年同研究科・海洋アライアンス海洋促進研究センター特任教授。文部科学省科学技術・学術審議会海洋開発分科会臨時委員。日本学術会議連携会員海洋生物学分科会委員長。

専門の海洋生物学の研究者として活躍する一方で、海洋教育の促進に従事。文部科学省(後JST)の女子中高生の理系選択支援事業や海に関する多様な知識・進学・仕事について紹介する書籍「海のプロフェッショナルー海洋学への招待状」の企画・編集などで教育啓発活動に努める。